

# 特別支援教育コーディネーターの役割

## －校内体制の機能と盲・聾・養護学校への期待－

大阪府教育センター  
小田 浩 伸

大阪府立守口養護学校  
瀧 本 一 夫

守口市立錦中学校  
仲 村 康 子

キーワード：特別支援教育コーディネーター、相談支援実習、センター的機能、中学校と養護学校との連携

### 1. 大阪府の特別支援教育コーディネーター研修について

#### (1) はじめに

大阪府の特別支援教育コーディネーター養成研修は、平成15年度より「盲・聾・養護学校地域支援コーディネーター実践研修」をスタートさせ、大阪市を除く、府内の盲・聾・養護学校から各校1名（計28名）を対象に、地域のセンター的機能を発揮するためのコーディネーター養成に取り組んでいる。また、平成16年度より「小・中学校特別支援教育コーディネーター実践研修」がはじまり、各市町村教育委員会から2～3名（100名程度）の推薦者を対象として、各校や市町村における特別支援教育推進のキーパーソンとなるリーディングスタッフの養成に取り組んでいる。さらに、平成17年度より「高等学校における特別支援教育推進研修」を実施し、高等学校における特別支援教育推進の中心となる教員の養成を図っている。こうした一連のコーディネーター養成の研修内容については、実践にすぐに役立つ内容の工夫として、実践型演習、相談支援実習、研究協議等を多く取り入れている。

本話題提供では、大阪府のコーディネーター養成研修で工夫している特徴的な内容の一つとして、盲・聾・養護学校地域支援コーディネーター実践研修で取り組んでいる、地域の幼稚園、小・中学校等の教職員を対象として実際に相談支援を行う「相談支援実習」について報告する。

#### (2) 盲・聾・養護学校地域支援コーディネーター実践研修における「相談支援実習」について

本相談支援実習は、盲・聾・養護学校のコーディネーターに求められる地域のセンター的役割の一つである幼稚園、小・中学校への支援を想定し、実際に相談支援を行う実習を通して、コーディネーターに必要な技能と知識の習得に資することを目的としている。

##### ①事前研修

本相談支援実習は、市の教育委員会と連携して行われ、「事前準備研修→当日の相談支援実習→事後報告研修」の流れで行っている。まず、相談支援実習の1ヶ月前に、連携している当該市内の幼稚園、保育所、小・中学校等の教職員から、支援を必要とする児童生徒に関する「教育相談シート」があげられ、市教育委員会が集約して、大阪府教育センターの担当者に届けられる。その「教育相談シート」を、8～9班に編成された研修受講者（1つの班が3～4名のグループ）に分配されて、「事前準備研修」がはじまる。相談事例については、1つの班で4事例程度担当することになり、班で分担して必要な情報や文献を収集したり、自主的にグループ協議を重ね、その結果をまとめたコンサルテーションの概要を、府教育センター担当者がスーパーバイズし、相談支援の準備を行う。

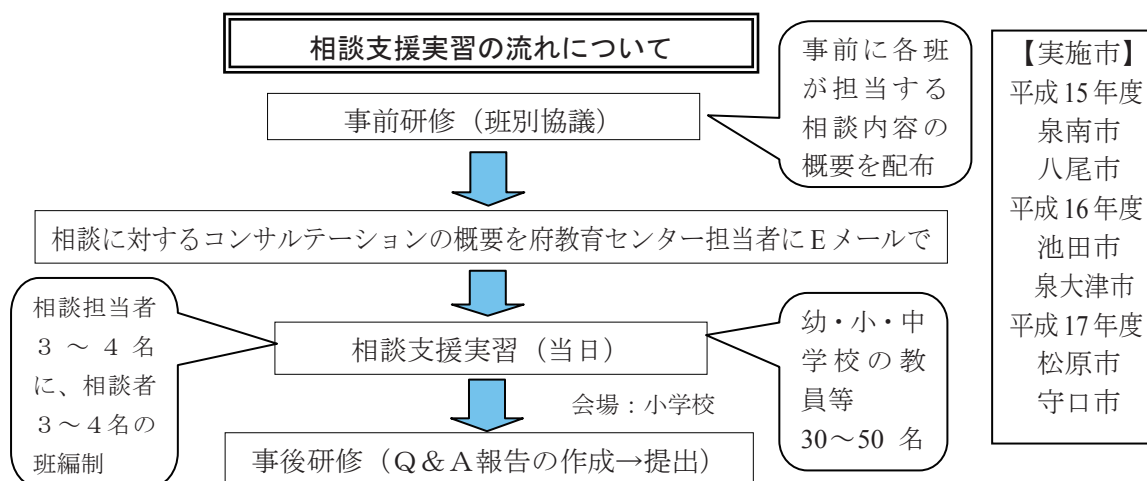
##### ②当日の相談支援実習研修

相談支援実習当日は、当該市内の一つの小学校を会場として、午前中は、全受講者が通常の学級と養護学級（特殊学級）の授業を参観する。午後は、教育相談シートをあげた各幼稚園、保育所、小・中学校の教職員が会場校に集まり、それぞれの相談を担当する班に分かれて、約2時間程の大相談会（相談支援実習）を行う。受講者は、事前の教育相談シートにより得ていた情報と、新たに

聴く内容を考え合わせて、役割を分担しながら（進行、記録、相談に応える役等）、「チームによる相談支援活動」を進めていく。相談支援実習の終了後は、各班の受講者で、それぞれの相談支援を振り返り、反省や課題の整理を行う。

### ③事後研修

事後報告研修として、相談支援実習のまとめをQ & A形式で、資料も加えた報告集を作成し、府教育センター担当者に提出する。その報告集は、市教育委員会を通じて各相談者にもフィードバックされる。



### （3）まとめと今後の課題

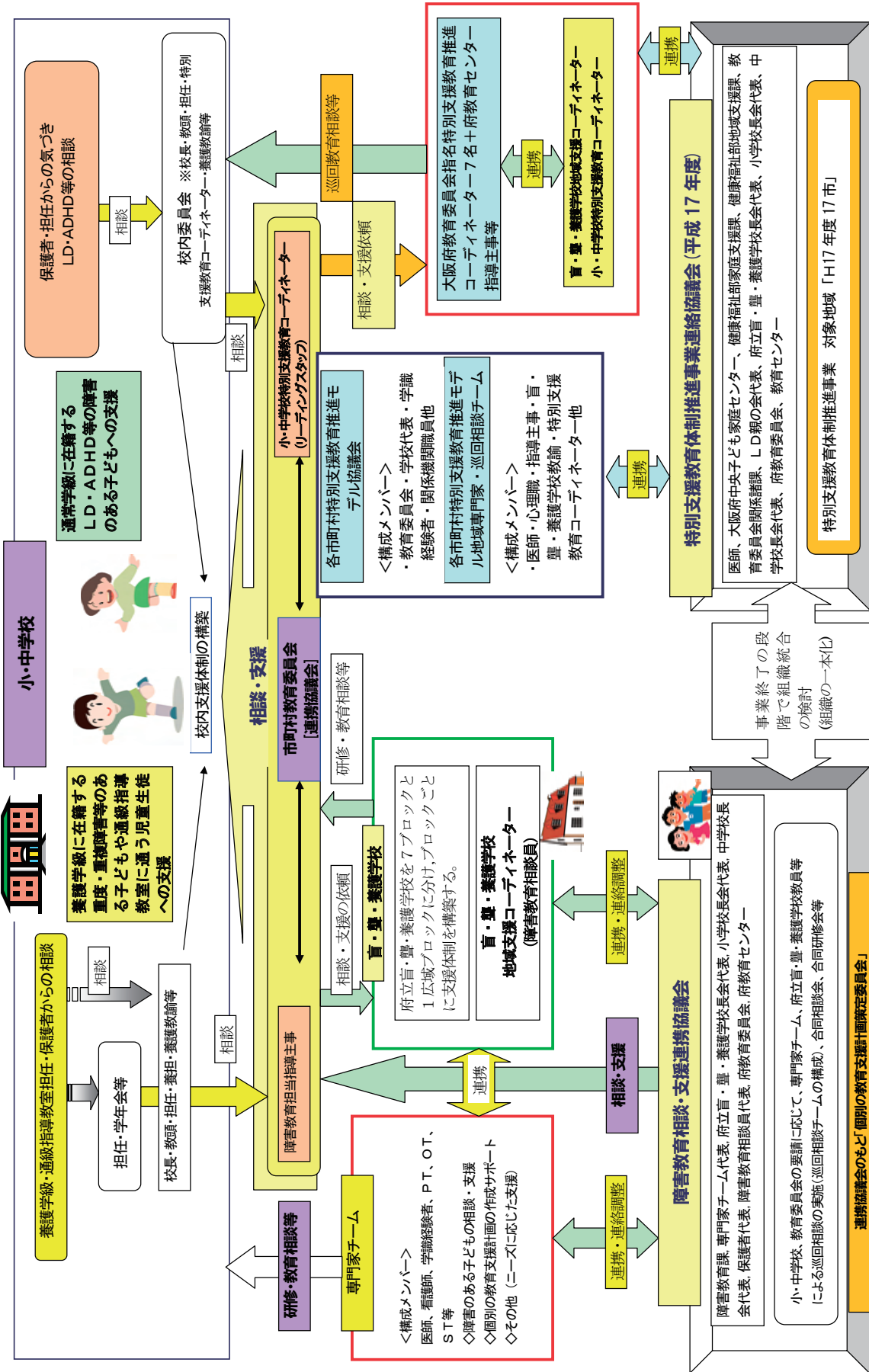
以上のように、盲・聾・養護学校の地域支援コーディネーター研修では、年間2回相談支援実習を地域で行い、実際に教育相談を担当することを通して、一連の相談支援に関するスキルアップを図っている。

相談支援を担当した本研修の受講者からは、①「相談支援実習を体験し、自らの専門性について振り返る機会になった」、②「コンサルテーションのための事前準備の重要性を認識した」、③「チームアプローチの在り方について勉強になった」、④「児童生徒の教育的ニーズを具体的な支援や資源に結びつけることの重要性が理解できた」等の感想が寄せられている。

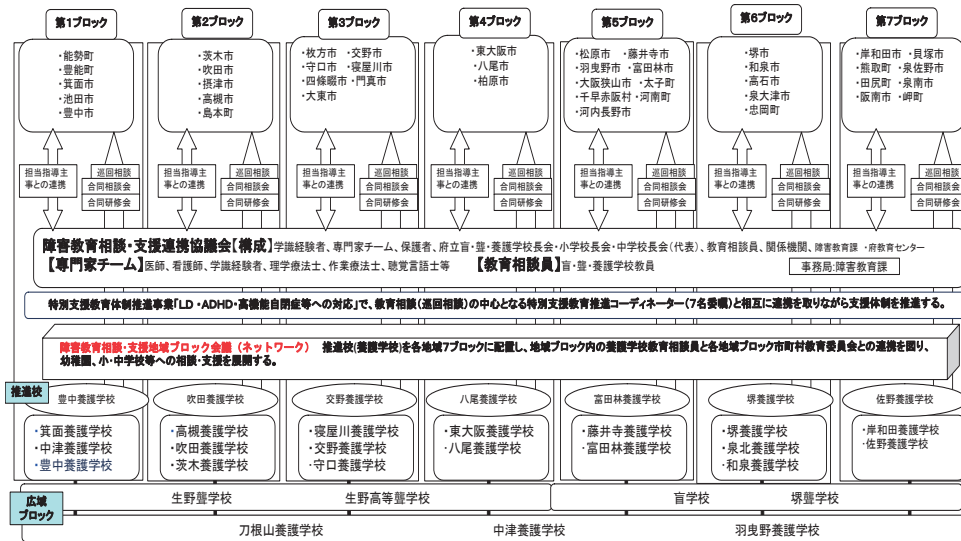
また、相談者の立場である幼稚園、小・中学校等の教職員からは、①「具体的な支援方法や配慮等のアドバイスをいただき、参考になった」、②「悩みを聞いてもらえてよかった」、③「盲・聾・養護学校の先生と交流でき、身近に感じることでよかった」等の好感的な感想が多く、また、④「もっと時間がほしかった」、「このような相談形式の研修を定期的に設定してほしい」等の要望も多く出されている。そのため、市教育委員会からの要請により、この「大相談会」の形式を、毎年定期的に市教育委員会と近隣の盲・聾・養護学校が連携して、開催しているところも多くなってきている。今後、盲・聾・養護学校が地域支援のセンター的役割を担うことを考えると、このような「演習・実習型」の研修会を、小・中学校のコーディネーターと連携して計画していくことが求められる。

## 2. 大阪府における小・中学校等への教育相談・支援の展開について

### 大阪府における小・中学校等への教育相談・支援の展開について



## 大阪府における『障害教育相談・支援事業』(平成16・17年)の概要



### 3. 小・中学校等と養護学校との連携について

#### (1) 守口市立錦中学校について

- ①校内での理解啓発から校内委員会設置までの経緯
- ②校区の小学校との連携
- ③養護学校地域支援コーディネーターとの連携
- ④今後の課題（高等学校との連携等）

#### (2) 大阪府立守口養護学校について

- ①校内体制の整備と今後の展開
- ②センター機能の意義と役割
- ③小・中学校等への支援の実際（支援のニーズと内容等）

#### (3) 連携の在り方について

- ①中学校のコーディネーターと養護学校のコーディネーターの連携が大切
- ②双方向の連携になることが大切
- ③児童生徒等の実態把握を詳細に実施することから共有していくことが大切
- ④実行可能で系統的な指導・支援をP-D-C-Aのサイクルで展開することが大切

#### (4) 中学校のコーディネーターによる盲・聾・養護学校のセンター的機能への期待

- ①校内における教員や児童生徒への支援ニーズをどう把握するかについての支援・連携機能
- ②中学校の校内委員会を活性化するための支援・連携機能（盲・聾・養護学校のコーディネーターの校内委員会への参加等について）

#### (5) 盲・聾・養護学校のコーディネーターの役割と課題について

- ①教育相談活動（相談者の力量を高める相談支援）
- ②情報提供活動（教材、支援機関等の紹介）
- ③指導・支援活動（学習面、行動面、対人関係面等への支援）
- ④問題が生じたときの対応だけでなく、事前の関わりの在り方について検討が必要
- ⑤小・中学校における組織としての教育力、教員の問題解決力の向上にむけた支援の推進